

講演会



《著書『八重子のハミング』作品紹介》

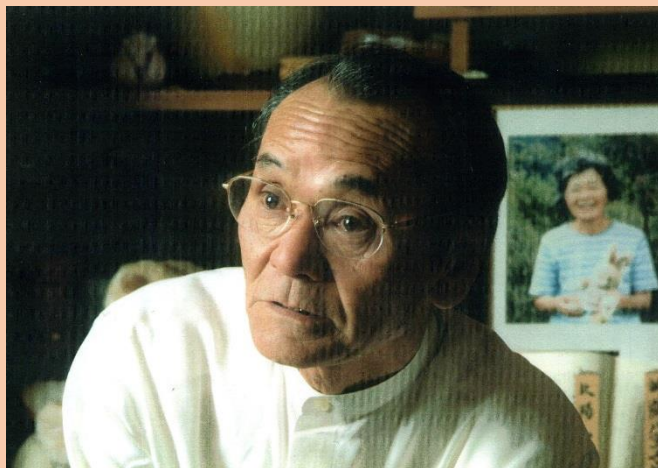
アルツハイマーという病気は、家族とゆっくりしたお別れ、つまりスローグッバイ。4度のがん手術から生還した夫がアルツハイマーの妻に贈る、31 文字のラブレター。

目には見えない小さな変化が、ある日突然大きな変化となって現れて家族をあわてさせ、私の心臓を凍りつかせる。そしてまたしばらく小康状態が続くというのが、妻のアルツハイマーの特徴である。発症してから 11 年間の間に、字が読めなくなり、書けなくなり、計算ができなくなる。会話が续かなくなり、徘徊が始まり、娘の顔さえ忘れ、自分で食事ができなくなった。そしてついにトイレの始末がまったくできなくなったのである。脳梗塞が萎縮していく過程で、妻の場合は膀胱に脳からの指令が届かなくなり、膀胱が収縮せずに伸びきったままになった。それはつまり……。

演題：～老老介護 4000 日の軌跡～ 八重子のハミング

講師：萩金谷天満宮宮司
山口県歌人協会理事
『八重子のハミング』著者

みなみ のぶたか
陽 信孝 さん



《講師プロフィール》

山口県萩市生まれ。大学卒業後、教職員採用試験に合格し情島中学校の教諭となり、そこで、妻「八重子」と出会い結婚。その後、萩市内の中学校の教頭、校長を歴任。1991 年 4 月、がんの宣告を受け手術。その頃から妻・八重子さんが「アルツハイマー病」を発症。3 度のがん再発を乗り越え退職後、小学校の校長・萩市教育委員会、教育長を歴任したが、妻・八重子さんの介護のため、教育長を退任し現在に至っている。

日時 平成 30 年
5 月 20 日 (日) 14 時～15 時 30 分

会場 里庄総合文化ホール「フロイデ」電動中ホール

● 入場無料／町内外、男女問わず参加できます ●